

令和 6 年度
北九州市 地域福祉に関する市民意識調査結果
概要版

○調査概要

- 実施目的：次期地域福祉計画策定にあたっての基礎資料とするため、市民の地域福祉に関する意識及びニーズを調査
- 実施期間：令和6年12月16日～令和7年1月15日
- 調査対象：市内在住の20歳以上 6,000人（無作為抽出）
- 調査方法：調査対象者宛てに郵送にて調査票発送
回答は郵送またはオンライン
- 調査項目：地域での関係性、地域福祉活動への参画、生活状況、福祉サービスの利用（全31問）

○調査結果

- 回答数：1,638件（うちオンライン回答697件）
- 有効回答率：27.3%

表１：年代

全体	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75以上	無回答
1,638	90	108	106	135	94	90	103	104	106	120	159	409	14
100%	5.5%	6.6%	6.5%	8.2%	5.7%	5.5%	6.3%	6.3%	6.5%	7.3%	9.7%	25.0%	0.9%

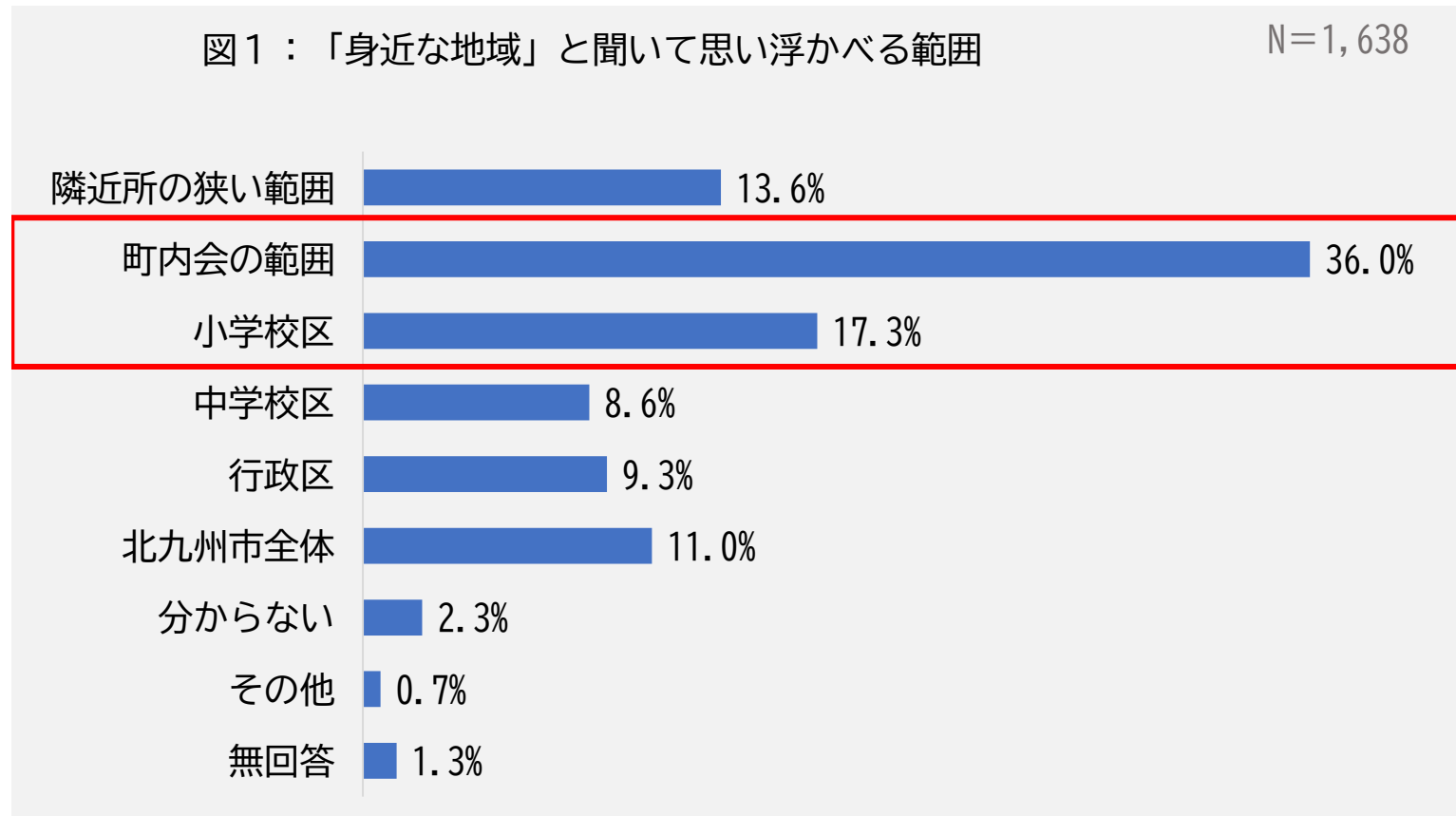
表２：性別

全体	男性	女性	選べない・ 答えたくない	無回答
1,638	666	943	12	17
100%	40.7%	57.6%	0.7%	1.0%

表３：居住区

全体	門司区	小倉北区	小倉南区	若松区	八幡東区	八幡西区	戸畑区	無回答
1,638	167	304	351	132	117	464	91	12
100%	10.2%	18.6%	21.4%	8.1%	7.1%	28.3%	5.6%	0.7%

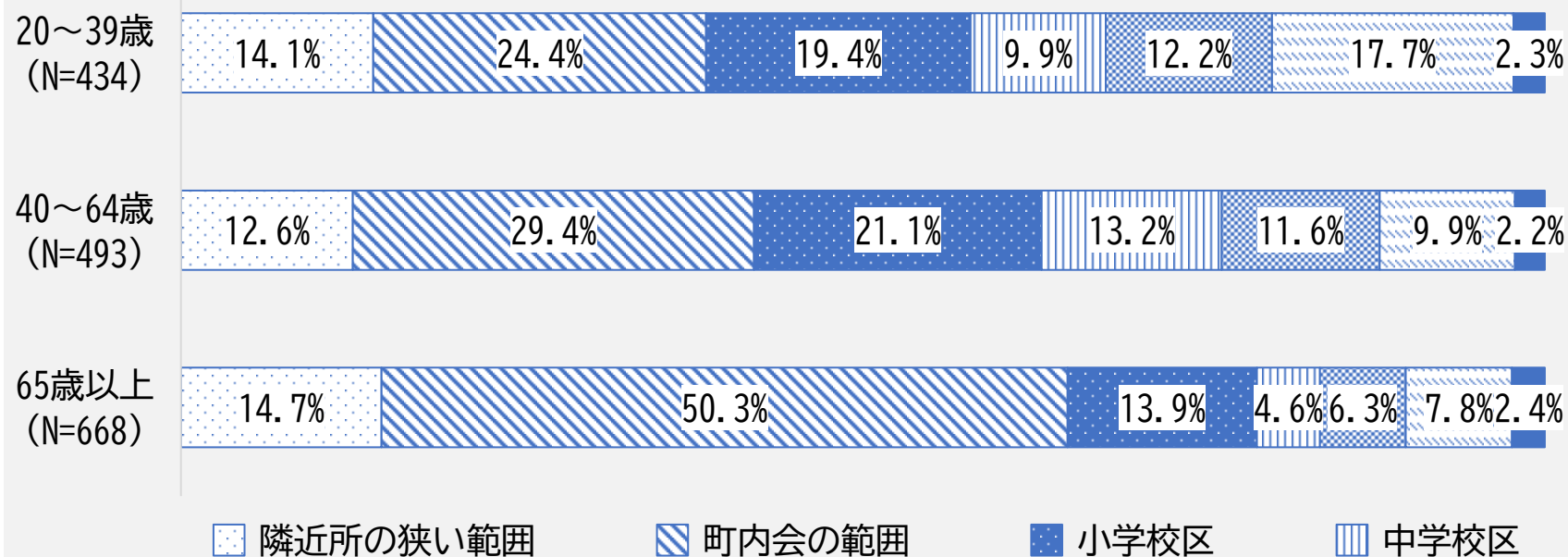
- 「身近な地域」とは、町内会の範囲だという回答が最も多く36.0%、次いで「小学校区の範囲」が17.3%であった。
- 2.3%の回答者が「分からない」と回答した。



【年代別】 「身近な地域」と聞いて思い浮かべる範囲はどこか

- 年代別に見ると、すべての年代で「町内会の範囲」と回答した人が多く、特に、65歳以上では半数以上が「町内会の範囲」と回答した。
- 64歳以下では、「小学校区の範囲」が2番目に多くなっているのに対し、65歳以上では「隣近所の狭い範囲」が2番目に多い結果となった。

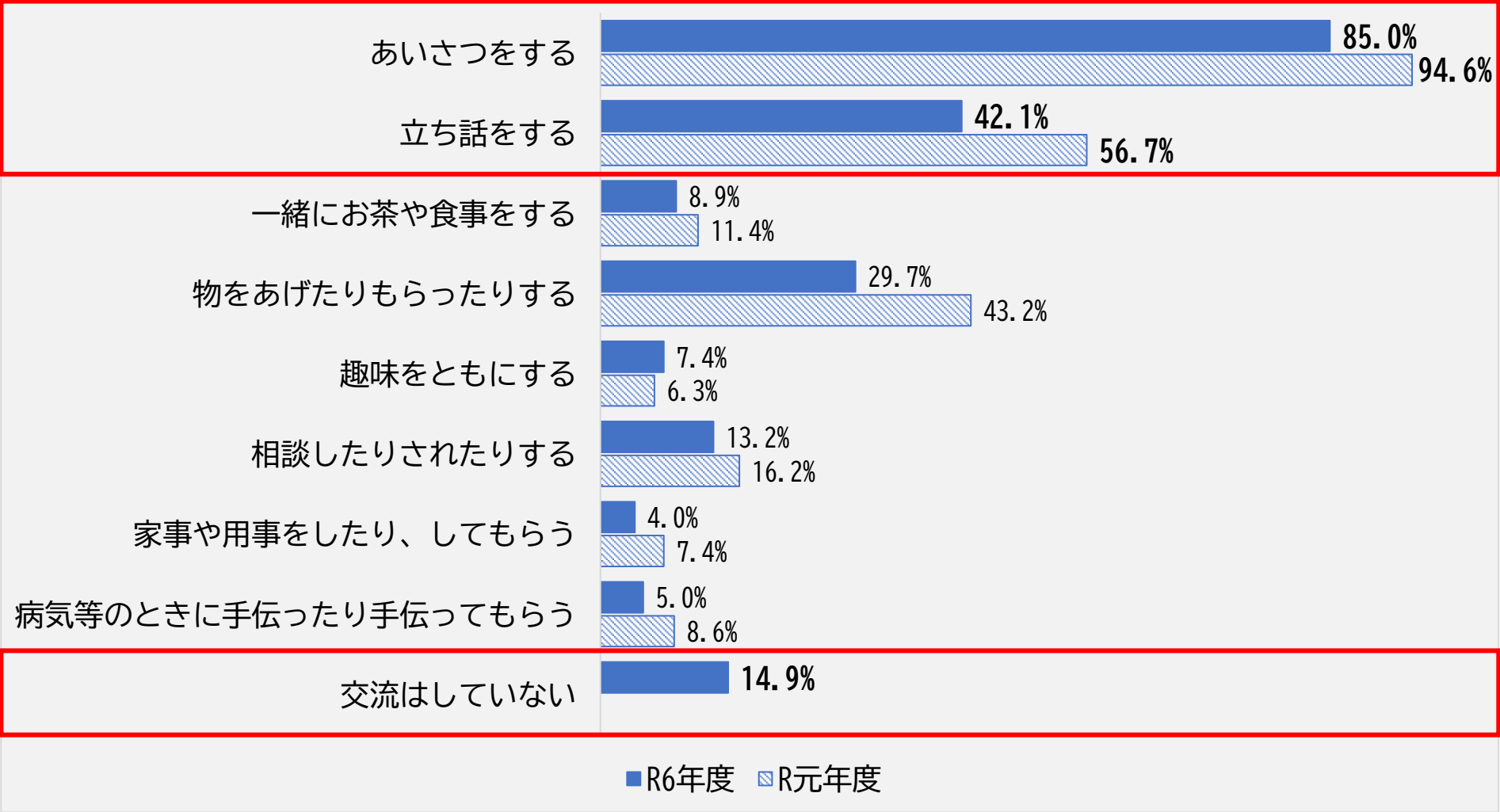
図2：【年代別】 「身近な地域」と聞いて思い浮かべる範囲



問2 住んでいる地域で行っている交流はどれか（複数回答）

- 地域での交流は、「あいさつを交わす」が最も多く85.0%、次いで「立ち話をする」が42.1%であった。
- 「交流はしていない」と回答した人は14.9%と、4番目に多い結果となった。
- 前回調査（令和元年度）結果と比較すると、「趣味をともにする」を除くすべての項目で3ポイント～14ポイント減少するなど、地域での交流の希薄化が見られた。

図3：住んでいる地域で行っている交流

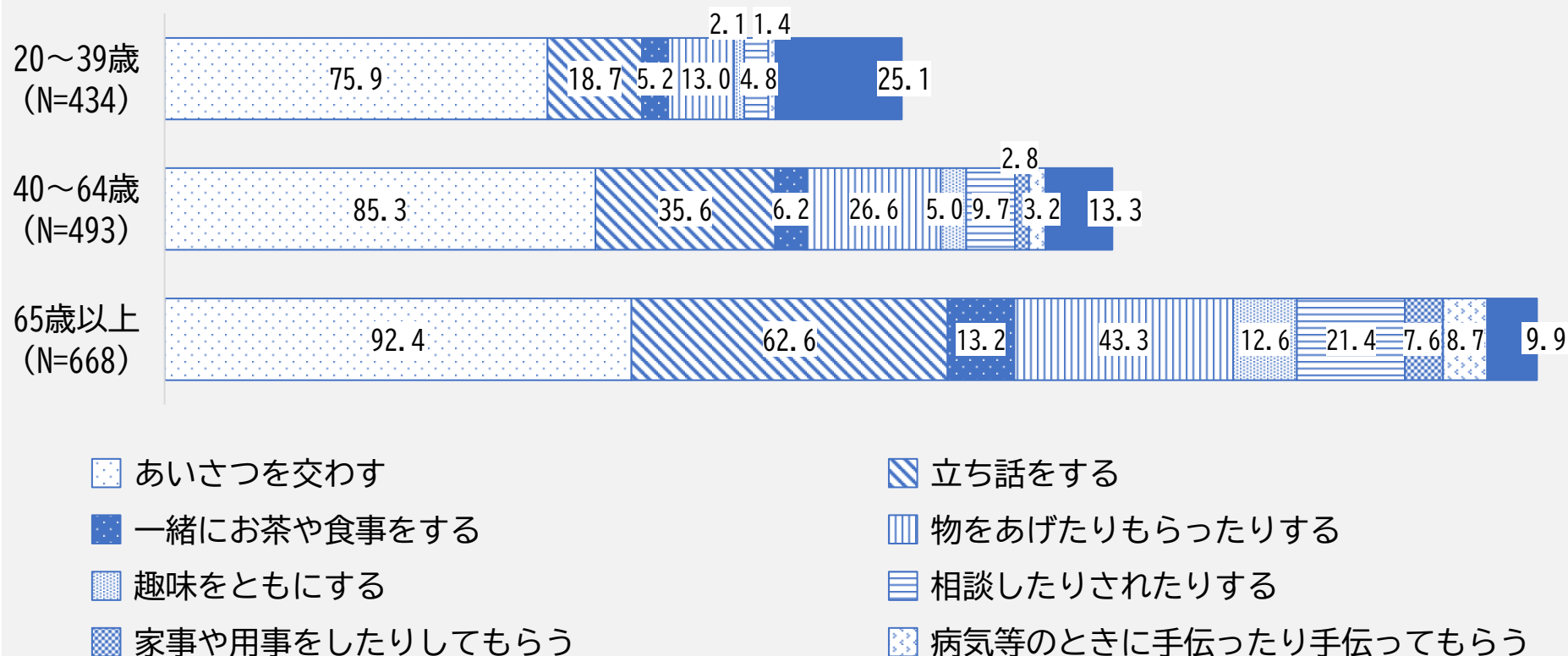


【年代別】住んでいる地域で行っている交流はどれか（複数回答）

■すべての年代において、あいさつを交わすが最も多かった。

■40歳以上では立ち話をする、20～39歳では交流はしていないが次いで多い結果となった。

図4：【年代別】住んでいる地域で行っている交流

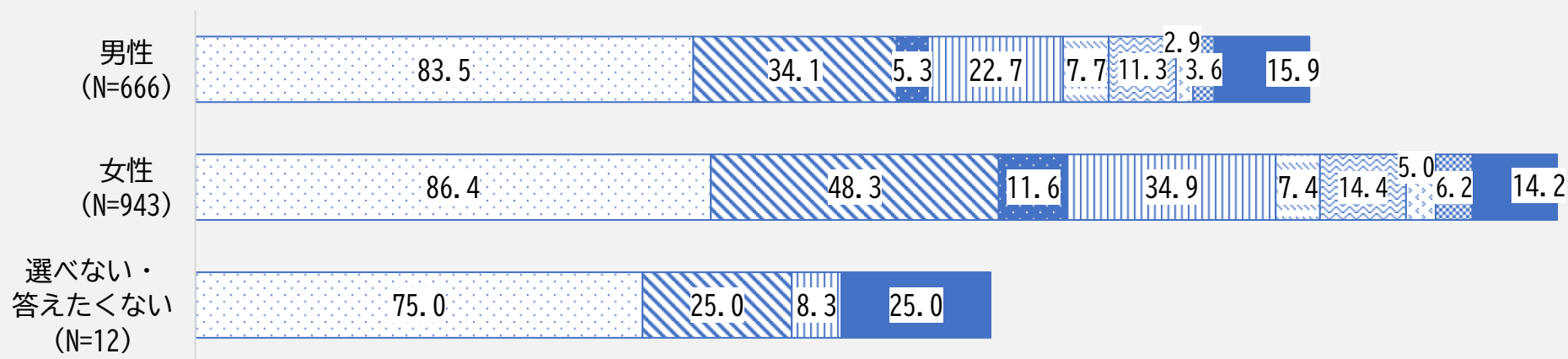


【性別】住んでいる地域で行っている交流はどれか（複数回答）

■すべての性別において、「あいさつを交わす」が最も多く、「立ち話をする」が次いで多い結果となった。

■男性より女性の方が、何らかの交流を行っている人の割合が高かった。

図5：【性別】住んでいる地域で行っている交流（％）



□ あいさつを交わす

■ 一緒にお茶や食事をする

▨ 趣味をともにする

▤ 家事等をしたりしてもらう

▧ 立ち話をする

▩ 物をあげたりもらったりする

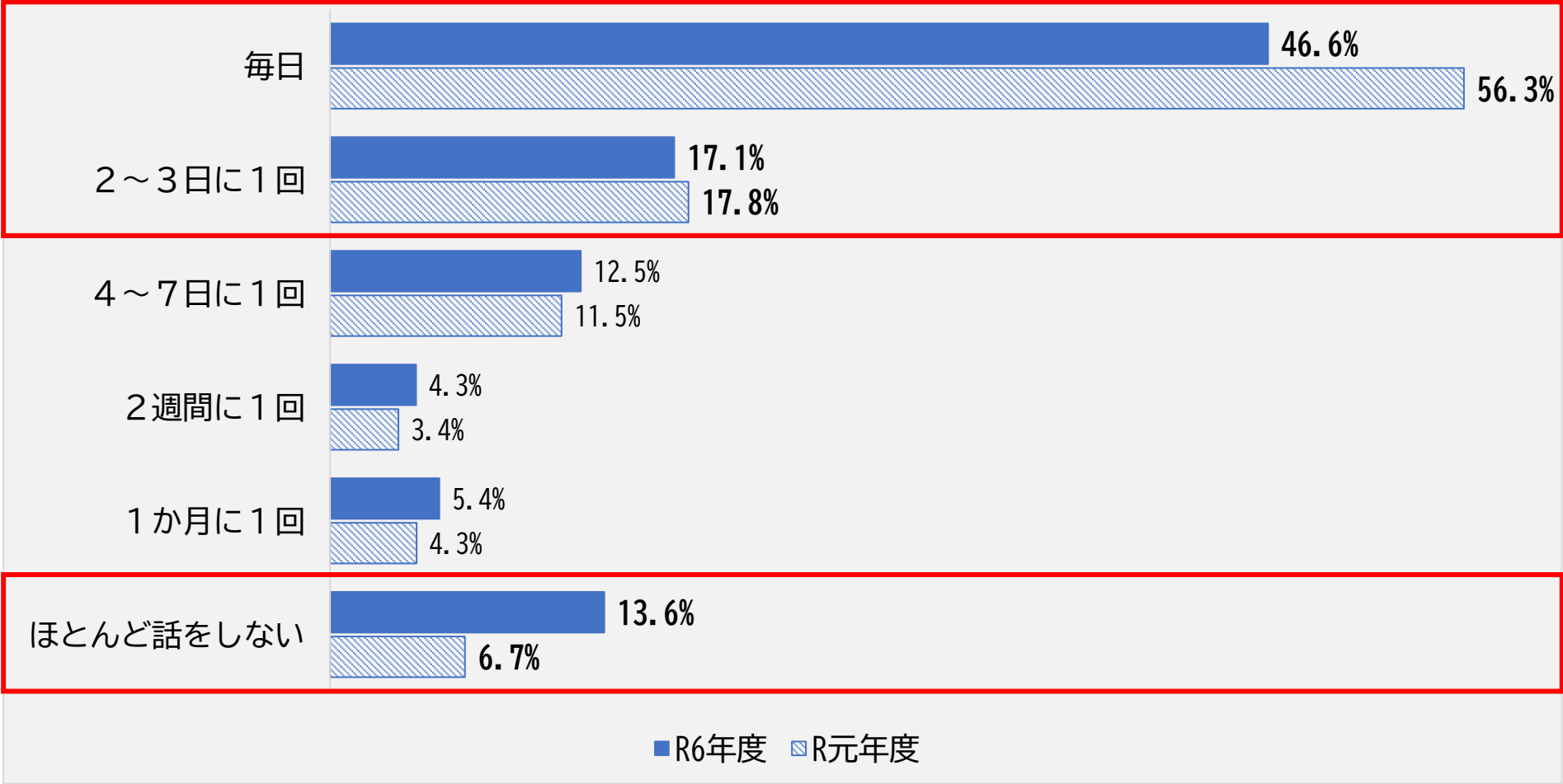
▦ 相談したりされたりする

▨ 病気等ときに手伝ったり手伝ってもらう

問3 普段どの程度、人と会話や世間話をするか

- 毎日と回答した人が最も多い46.6%、次いで2～3日が17.1%であった。
- 一方で、13.6%は、ほとんど話をしないと回答した。
- 前回調査結果と比較して、毎日会話や世間話をする人は9.7ポイント減少した一方で、ほとんど話をしない人は6.9ポイント増加しており、地域での交流の希薄化が見られた。

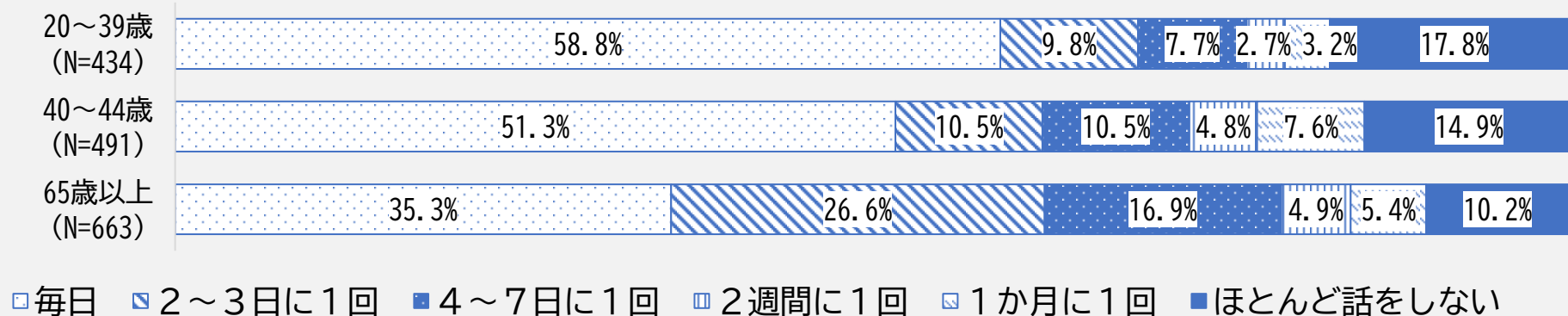
図6：人と会話や世間話をする頻度



【年代・性別】 普段どの程度、人と会話や世間話をするか

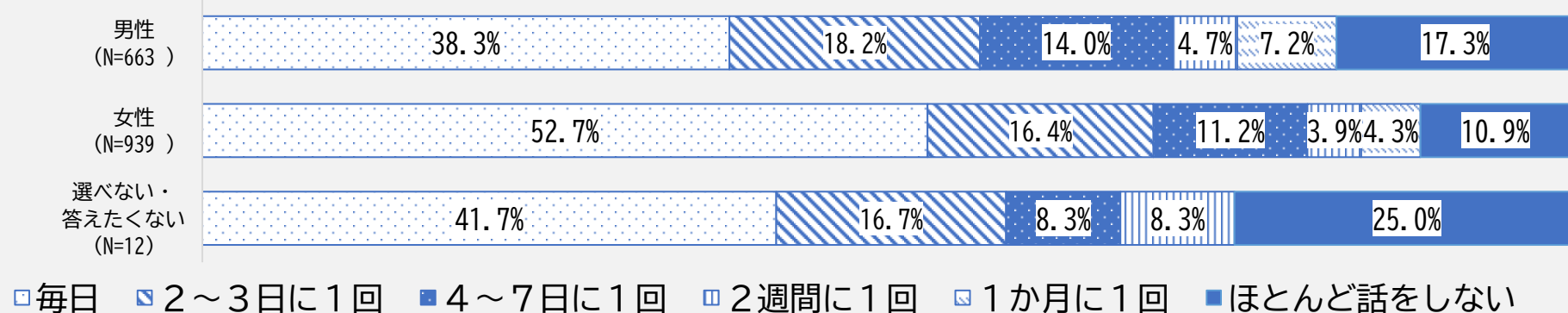
■年代別では、若い世代の方が、毎日会話する人の割合が高い一方で、ほとんど話をしない人の割合も高い結果となった。

図7：【年代別】 人と会話や世間話をする頻度



■性別では、女性の方が毎日会話する人の割合が高く、ほとんど話をしない人の割合が低い結果となった。

図8：【性別】 人と会話や世間話をする頻度

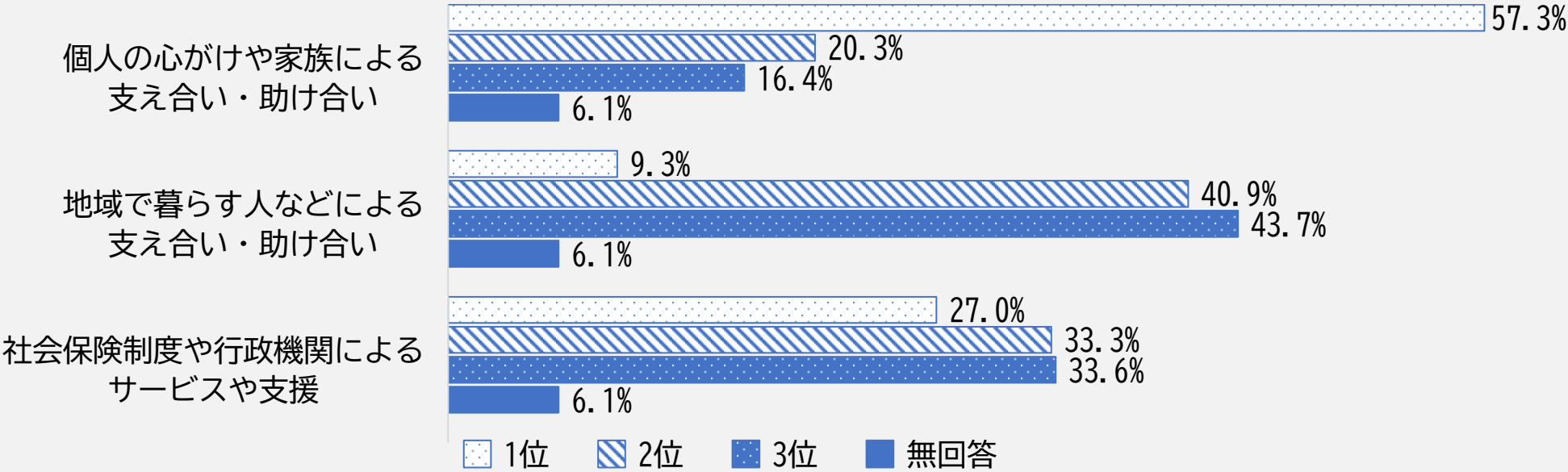


問5 住民が地域の中で生活できるようにしていくためにどのようなことが大切だと思うか

■「個人の心がけや家族による支え合い・助け合い」が1番大切であると回答したのは**57.3%**、
「地域で暮らす人などによる、支え合い・助け合い」は**9.3%**、「社会保険制度や行政機関によ
るサービスや支援」は**27.0%**であった。

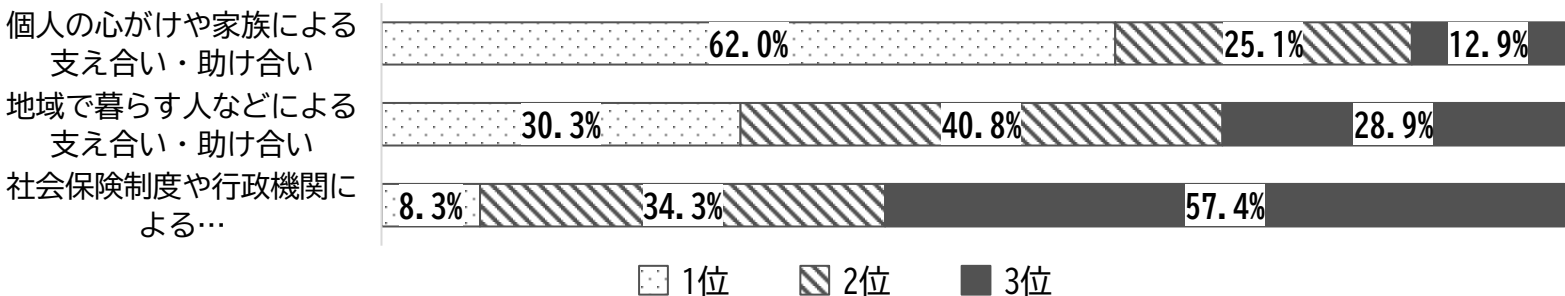
N=1,638

図9：住民が地域の中で生活できるようにしていくために大切だと思うこと



(参考) 令和元年度調査結果

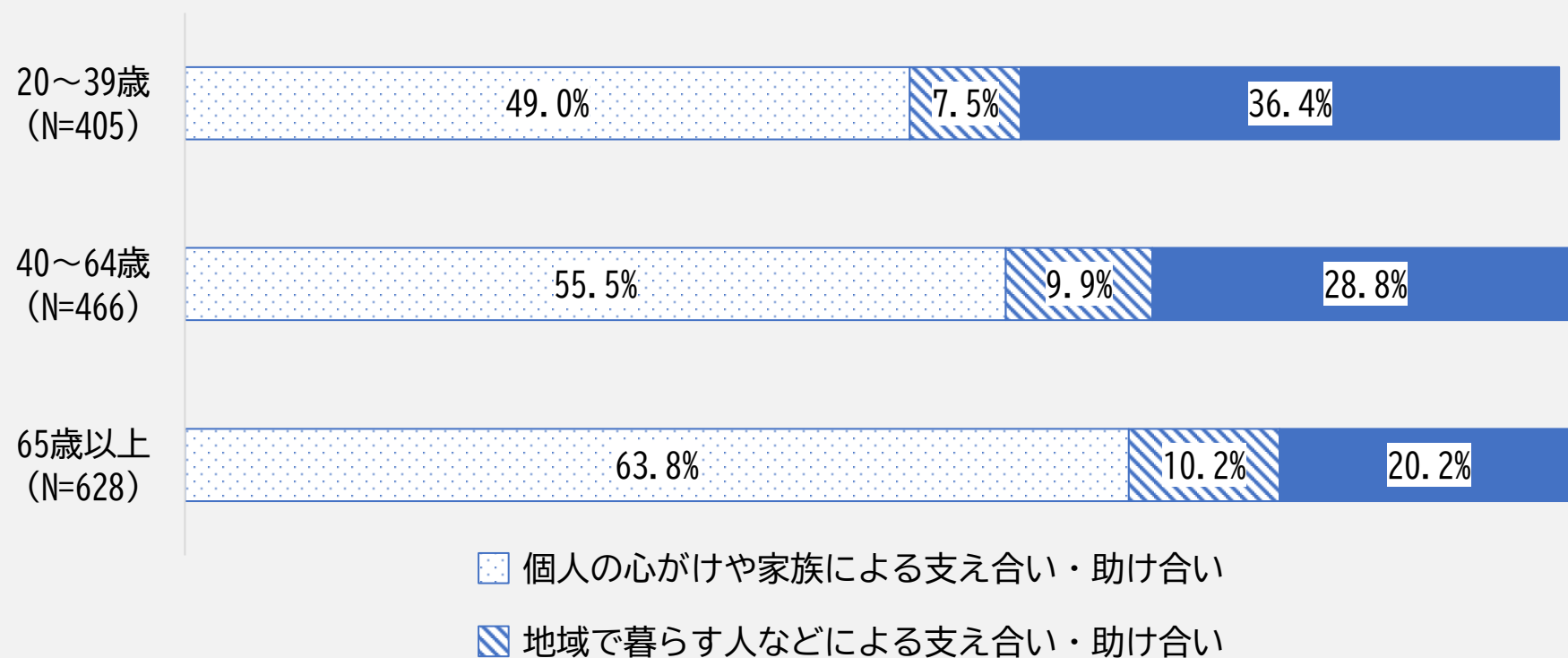
N=1,775



【年代別】住民が地域の中で生活できるようにしていくために最も大切だと思うこと

- すべての年代で、「個人の心がけや家族による支え合い・助け合い」が最も大切だと回答した人が多い結果となった。
- 年代が低くなるにつれ、「社会保険制度や行政機関によるサービスや支援」が最も大切だと回答した人の割合が高くなった。

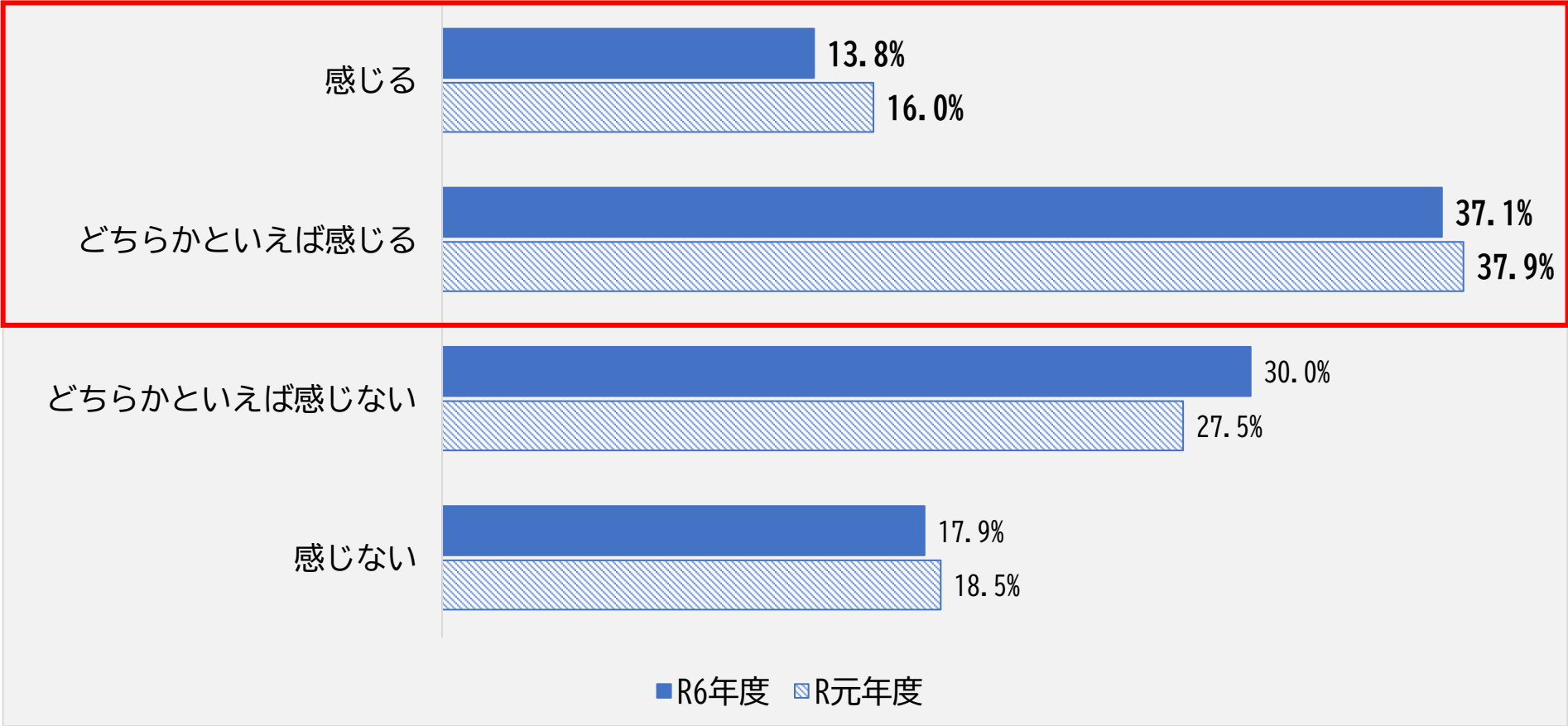
図10：【年代別】住民が地域の中で生活できるようにしていくために最も大切だと思うこと



問7 住んでいる地域で近所の人同士の「つながり」や「支え合い」を感じるか

- 感じる・どちらかといえば感じると回答した人の合計は50.9%で、どちらかといえば感じない・感じないと回答した人の合計47.9%を上回った。
- 前回調査結果と比較して、感じる・どちらかといえば感じると回答した人は合計で3ポイント減とやや減少する結果となった。

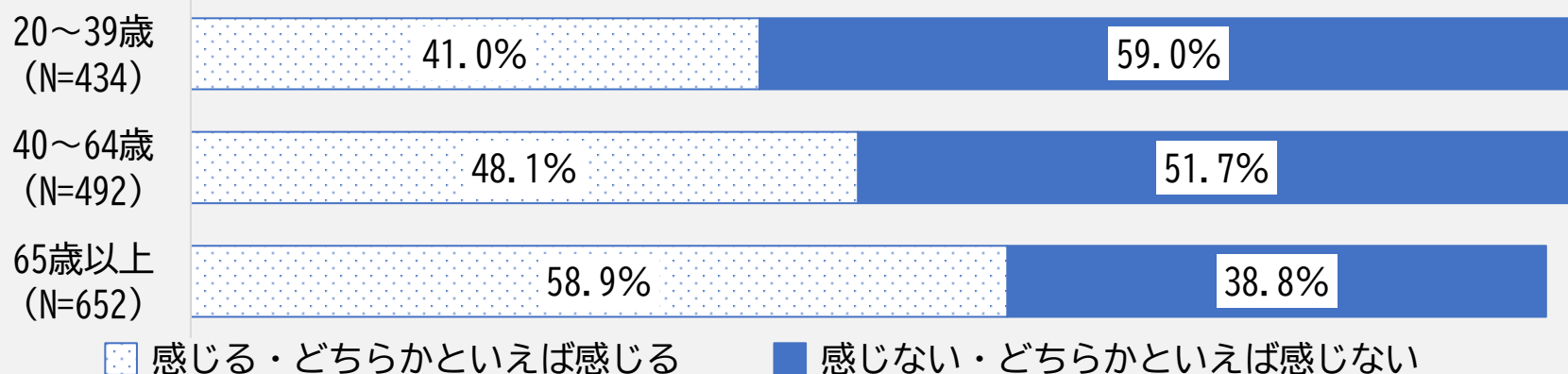
図11：住んでいる地域で「つながり」「支え合い」を感じるか



【年代・性別】住んでいる地域で近所の人同士の「つながり」や「支え合い」を感じるか

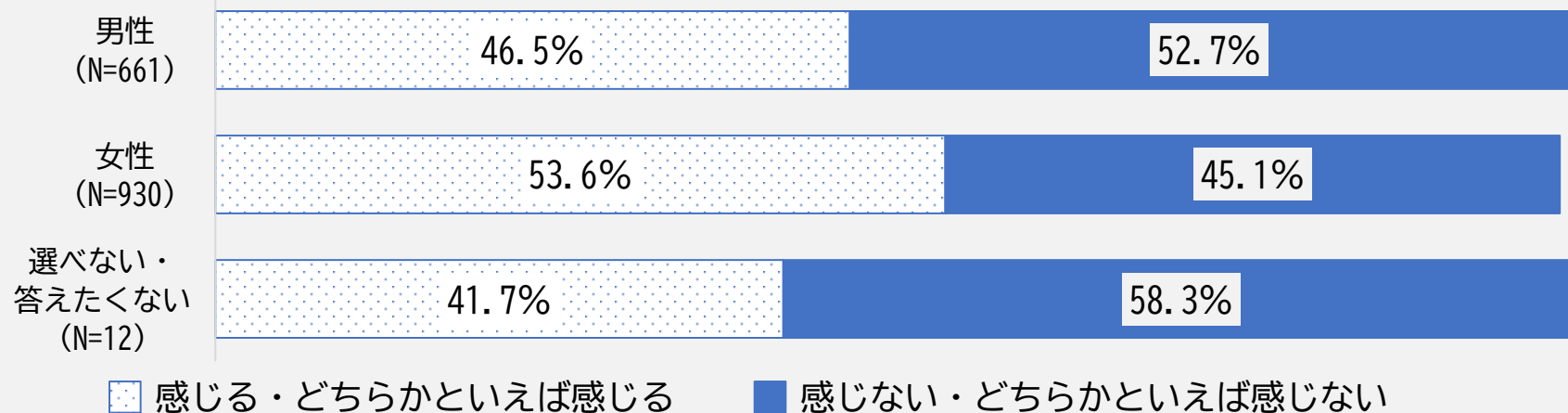
■年代別では、年代が高くなるほど、「つながり」「支え合い」を感じる割合が高い結果となった。

図12：【年代別】住んでいる地域で「つながり」「支え合い」を感じるか



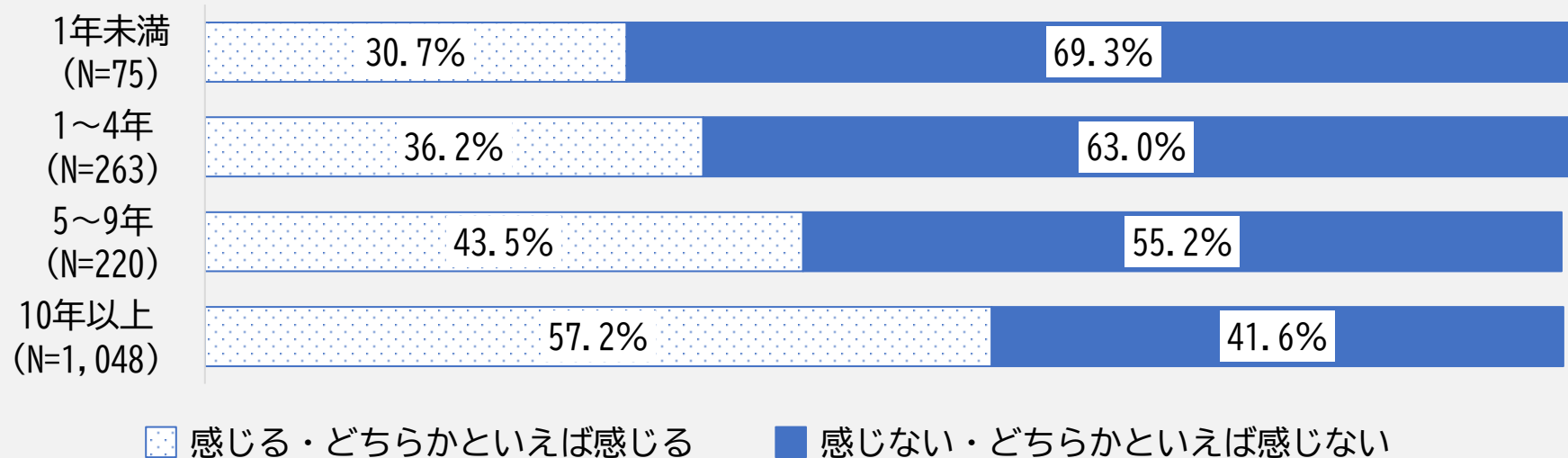
■性別では、男性と比較して、女性の方が「つながり」「支え合い」を感じる割合がやや高かった。

図13：【性別】住んでいる地域で「つながり」「支え合い」を感じるか



■居住年数が長くなるほど、「つながり」「支え合い」を感じる割合が高い結果となった。

図14：【居住年数別】住んでいる地域で「つながり」「支え合い」を感じるか



問9 頼りたいときに頼れる人はいるか（複数回答）

■どの項目についても、「家族・親族」と回答した人が最も多く、次いで、「友人・知人」、「頼れる人はいない」、「人に頼らない」と回答した人が多かった。

表4：頼りたいときに頼れる人 N=1,638

	頼れる人がいる									いない	人に頼らない	無回答
	家族親族	友人知人	近所の人	職場の人	民生委員等	福祉関係者	マンション管理人	オンラインの知人	その他			
子どもの世話や看病	56.1%	12.1%	3.0%	2.9%	1.0%	1.3%	0.1%	0.4%	0.3%	17.1%	10.1%	15.1%
子ども以外の介護や看病	55.4%	5.3%	1.8%	1.0%	1.5%	10.6%	0.1%	0.1%	1.2%	19.0%	7.0%	11.7%
重要な事からの相談	78.1%	30.4%	1.6%	8.5%	1.3%	2.4%	0.2%	0.5%	1.4%	6.2%	4.8%	4.8%
愚痴を聞いてくれること	64.5%	55.1%	4.3%	18.5%	0.4%	1.3%	0.1%	1.6%	1.0%	4.9%	4.4%	6.5%
感情を分かち合うこと	79.8%	51.3%	4.9%	14.4%	0.3%	0.8%	0.0%	1.4%	1.2%	3.9%	2.4%	5.5%
いざというときのお金の援助	66.4%	3.8%	0.2%	0.7%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%	1.0%	9.3%	15.3%	7.4%
洗濯・掃除などの手助け	60.0%	6.7%	6.5%	0.9%	0.3%	1.1%	0.5%	0.1%	0.3%	9.8%	16.1%	8.1%
家を借りる時の保証人	66.4%	3.0%	0.2%	0.5%	0.1%	0.3%	0.0%	0.1%	0.4%	8.9%	11.4%	12.1%
成年後見人・保佐人・補助人	57.6%	2.8%	0.4%	0.2%	0.5%	1.2%	0.0%	0.1%	1.0%	16.0%	11.7%	12.7%
災害時の安否確認や避難介助	73.7%	25.2%	14.7%	10.1%	1.8%	1.2%	0.5%	0.3%	0.9%	9.3%	2.6%	7.8%

- 「頼りたいときに頼れる人がいる」と回答した人の割合は、すべての項目で前回調査（令和元年度）を下回った。

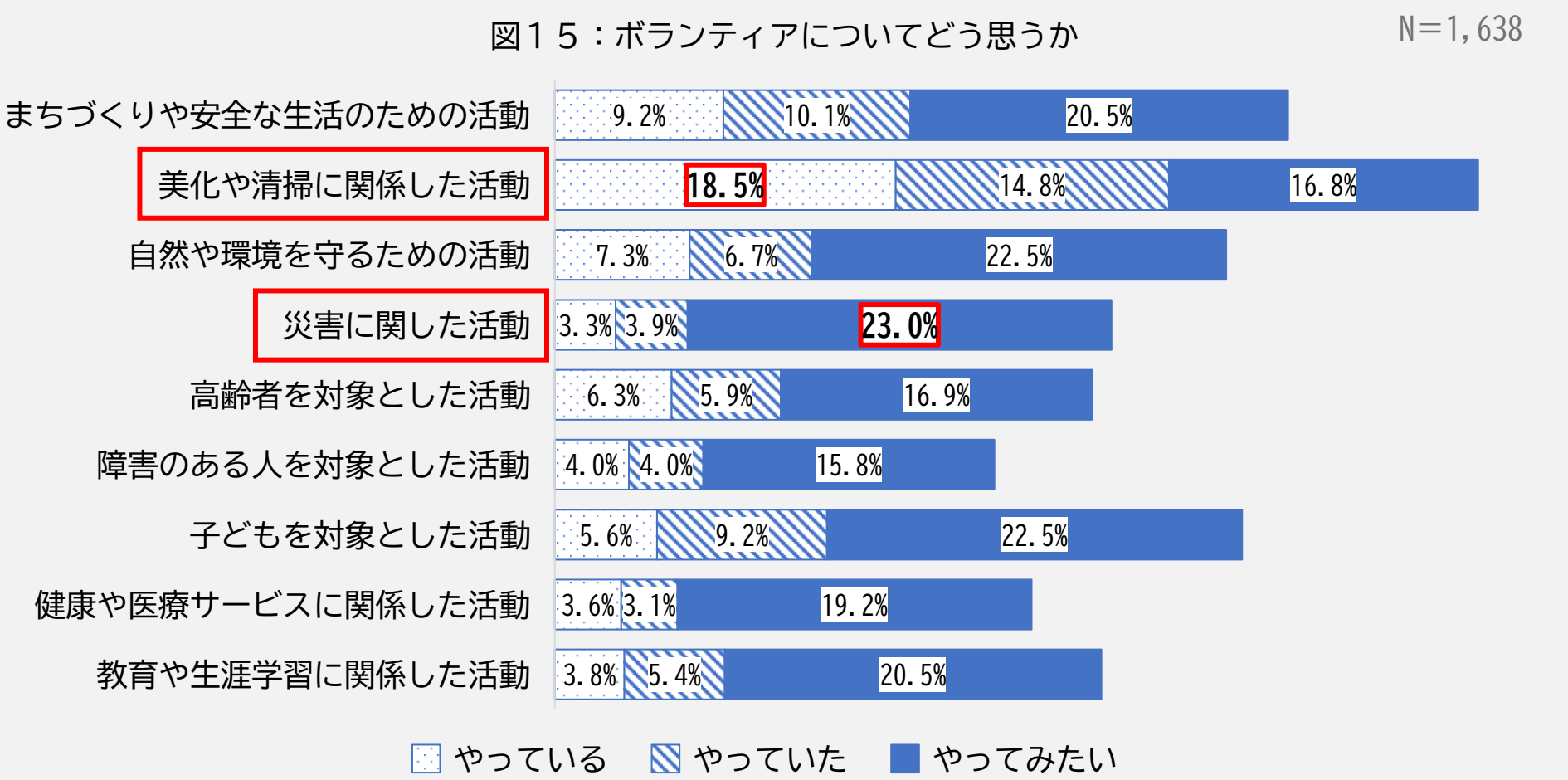
表5：頼りたいときに頼れる人がいる（経年比較）

（単位：％）

	令和元年度	→	令和6年度
子どもの世話や看病	69.4	↘	57.7
子ども以外の介護や看病	73.4	↘	62.3
重要な事からの相談	90.8	↘	84.2
愚痴を聞いてくれること	90.5	↘	84.2
感情を分かち合うこと	93.4	↘	88.2
いざというときのお金の援助	69.3	↘	68.0
洗濯・掃除などの手助け	85.3	↘	66.0
家を借りる時の保証人	74.0	↘	67.6
成年後見人・保佐人・補助人	68.4	↘	59.6
災害時の安否確認や避難介助	89.7	↘	80.3

問10 様々なボランティアについてどう思うか（複数回答）

■やっている・やっていたボランティアとしては、「美化や清掃に関係した活動」が最も多く、やってみたい活動は「災害に関する活動」が最も多かった。

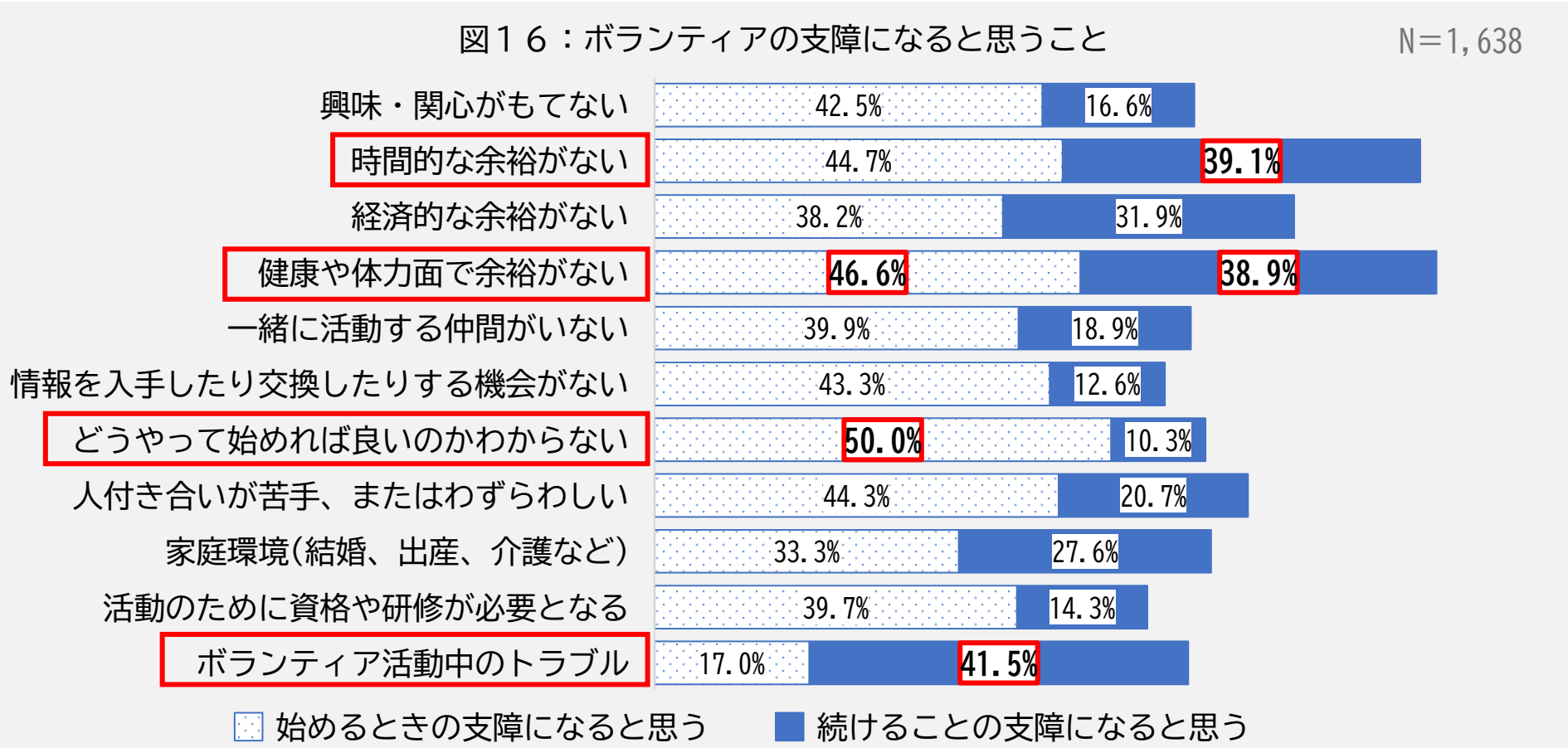


（参考）令和元年度調査結果

■ やっているボランティアでは、「美化や清掃に関係した活動」が14.5%で最も多く、やってみたいボランティアでは、「自然や環境を守るための活動」が24.8%と最も多かった。

問11 どのようなことがボランティアの支障になると思うか（複数回答）

- 始めることの支障は、「どうやって始めればよいのか分からない」、「健康や体力面で余裕がない」が多く、続けることの支障は、「活動中のトラブル」や「時間・健康・体力面での余裕がない」が多かった。
- 前回調査結果と比較すると、各項目について大きな変化はなかったものの、令和6年度調査では「どうやって始めればよいのか分からない」と回答した人が最も多くなっていることから、活動の情報発信が課題となっている。

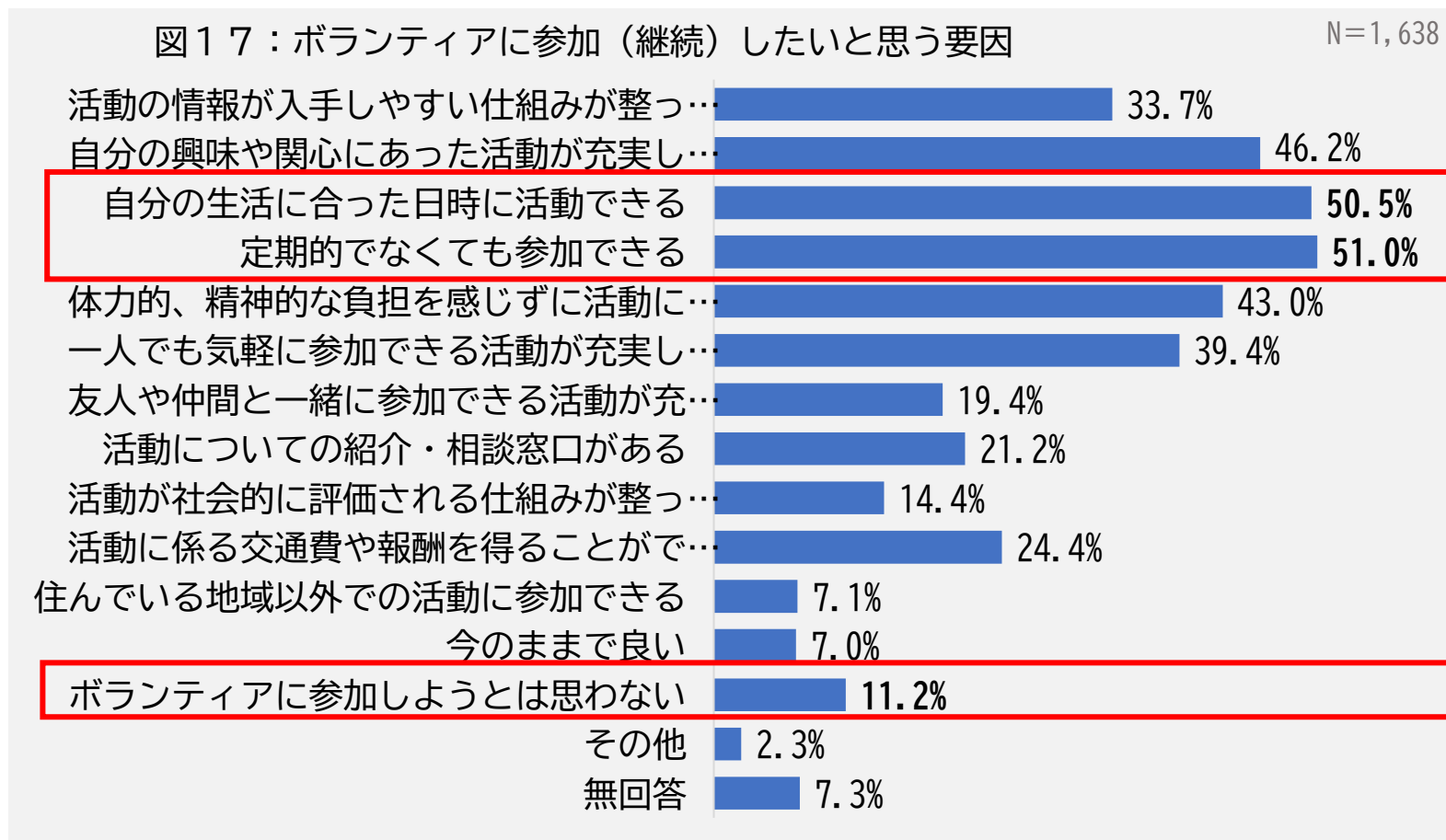


(参考) 令和元年度調査結果

- 始めるときの支障は、「時間的な余裕がない」、「人付き合いが苦手またはわずらわしい」が多く、5割程度であった。続けることの支障は、「時間的な余裕がない」が最も多かった。

問12 どのような状況になればボランティアに参加（継続）したいと思うか（複数回答）

- 「定期的でなくても参加できる」が最も多く51.0%、次いで、「自分の生活に合った日時に活動できる」が50.5%であった。
- 一方で、11.2%が、「ボランティアに参加しようとは思わない」と回答した。

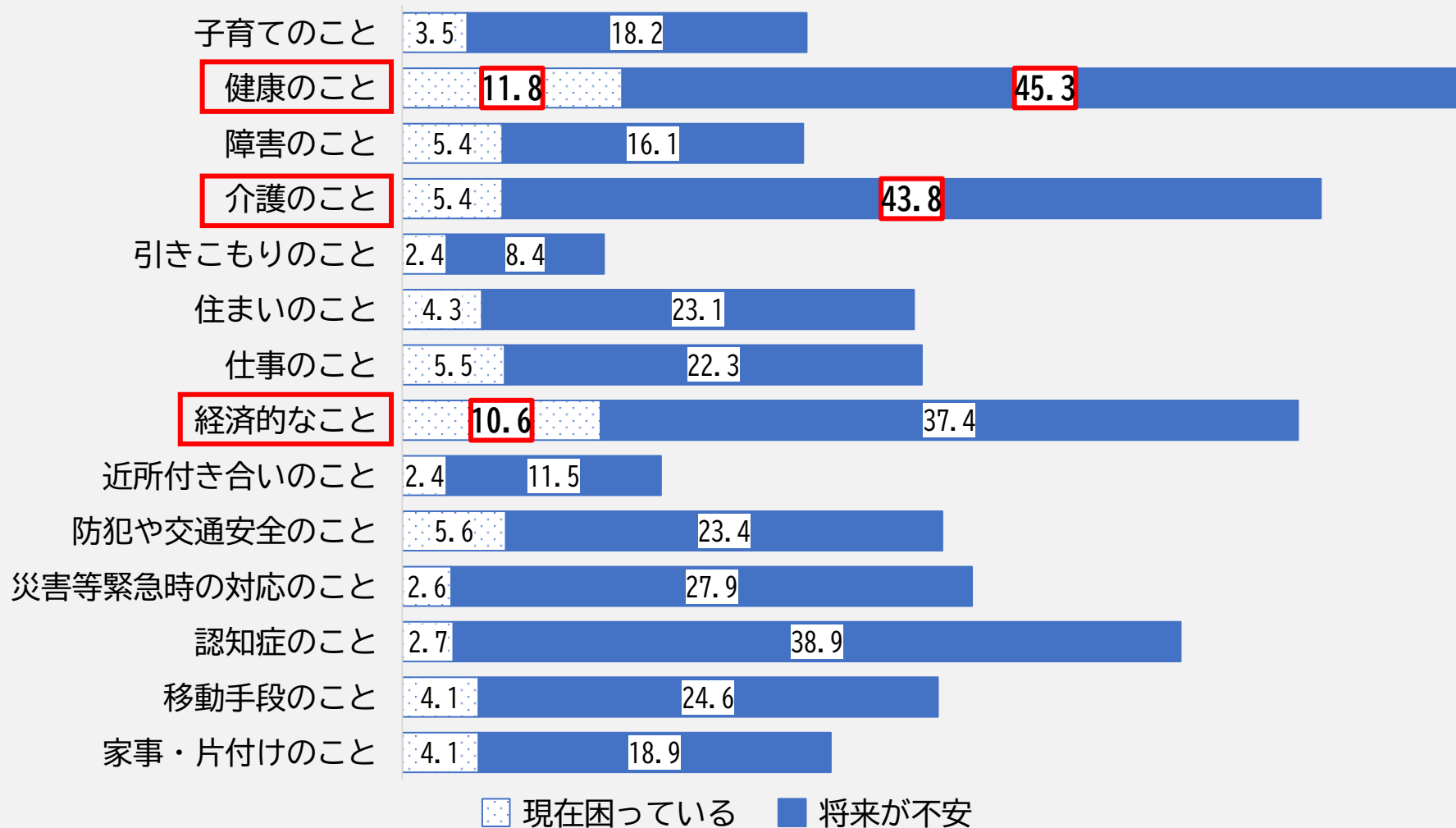


問16 自分や家族のことについて困っていると感じることは何か（複数回答）

- 「健康のこと」、「介護のこと」については、40%以上の人将来が不安と回答し、10%以上の人「健康のこと」、「経済的なこと」について現在困っていると回答した。

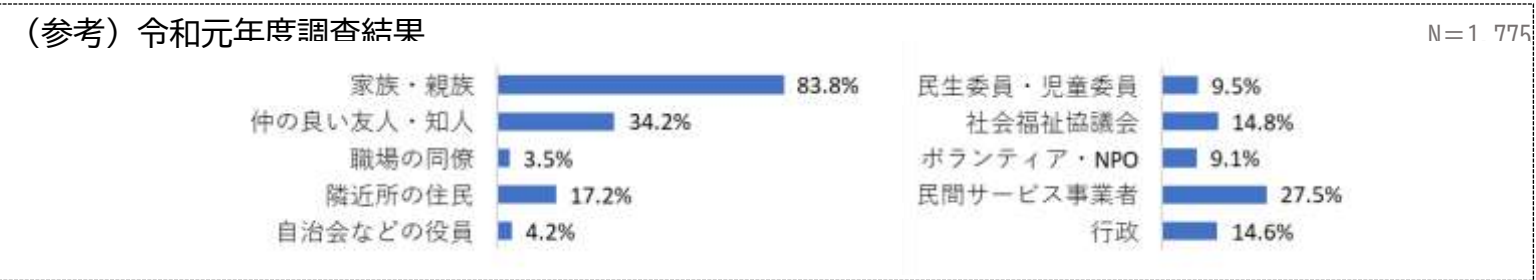
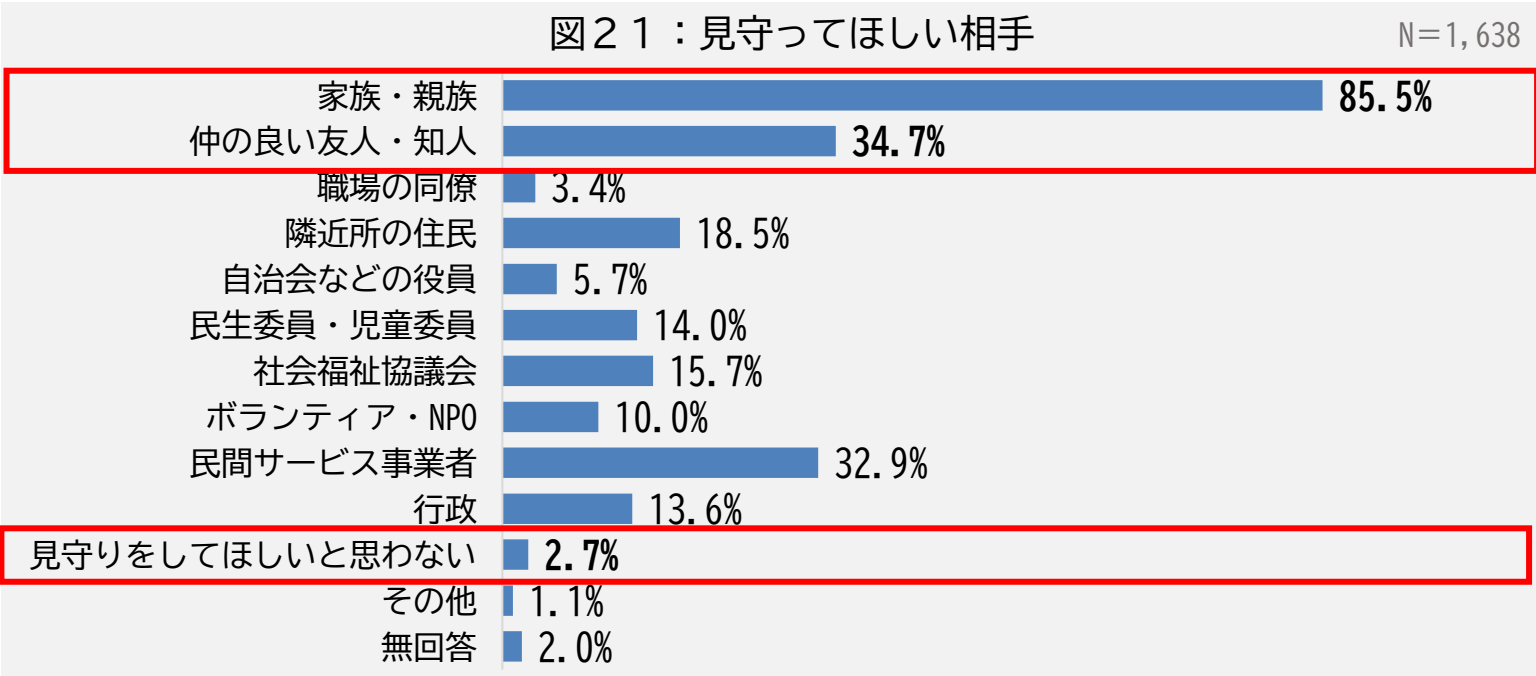
図18：自分や家族について困っていると感じること

N=1,638



問20 見守りが必要な状態(一人暮らし等)となった場合、誰に見守ってほしいか(複数回答)

- 「家族・親族」が最も多く85.5%、次いで「仲の良い友人・知人」が34.7%であった。
- 一方で、2.7%が「見守りをしてほしいと思わない」と回答した。



【年代別】見守りが必要な状態となった場合、誰に見守ってほしいか(複数回答)

■年代別で見ると、すべての年代で「家族・親族」の割合が高くなった。

■年代が高いほど「家族・親族」及び「仲の良い友人・知人」、「職場の同僚の」割合が下がり、その他の相手（「隣近所の住民」等）の割合が高くなった。

図22：【年代別】見守ってほしい相手（%）

